

将来のあるべき姿探求

全水道 中国から 鳥取水フォーラム開く



厚労省 福田室長 清水合金 和田社長 が講演

全日本水道労働組合中国地方本部と全日本自治団体労働組合鳥取県本部は1月24日、鳥取市内で2014鳥取水フォーラム「これからの水道を考える」を開いた。

同フォーラムは「新水道ビジョンと水道行政の当面する課題」に関する厚生労働省の福田宏之水道計画指導室長による記念講演と、「小規模集落の水供給を考える」をテーマとした清水合金製作所の和田正憲代表取締役

役社長による技術報告で構成。全水道、自治労関係者はもとより、中国地方の水道事業体も参加、130人を超える水道関係者が水道界を巡る最新動向に耳を傾け、これからの事業のあるべき姿を探究した。

福田室長は新水道ビジョンの解説の中で「安全」「強靱」「持続」を軸に発展的広域化や官民連携の推進、料金制度の最適化など取り組むべき具体方

策について言及。地域が積極的な推進を図っていくための環境整備として、水道事業ビジョン作成の手引きを通知するとともに、都道府県水道ビジョン作成を促す通知を發出していく意向を示した。さらに最新の話題としてアセットマネジメント、水道の広域化、官民連携についても事例を交えて詳しく解説した。

和田社長は、施設の老朽化の進行や不安定な原

水水質、深刻な技術者不足など小規模集落が抱える多くの課題に対応するべく開発した小規模集落用装置「アクアシリース」について解説。

膜ろ過法でクリプトスポリジウム対策を実現し、水質、施設に合わせたカスタマイズにより、さまざまな原水に対応できるような構成。さらにコンパクト化、可搬性、自動運転システムで場内の無人化、さらにはコスト

低減化を追求するなど小規模集落のニーズに対応した製品群を、設置事例や装置費用を交え解説した。

講演に先立ち、主催者側から同本部の倉本保広

副委員長、来賓として鳥取市の竹内功市長、杉本邦利水道事業管理者があいさつ。給水人口の減少や簡易水道の統合など多くの課題に対して実りある機会となるよう期待した。



福田室長



和田社長